

第2学年 道徳学習指導案

指導者 T1
T2

- 1 主題名 勤労の尊さと意義 (内容項目 4-(5))
資料名 「ぼくの職場体験学習」(彩の国の道徳「自分をみつめて」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

最近の、就職を先送りにし、働くことを避ける「ニート (Not in Employment, Education or Training)」と呼ばれる若者の急増は、見過ごすことのできない大きな社会問題となっている。

本授業では職業体験学習と関連させた道徳の授業を展開することにより、働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方、勤労・奉仕の精神を育てていきたい。そして、社会の一員として、一人一人が勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して社会生活の向上・発展に貢献していく態度を育てたい。また、自分の仕事に誇りや生きがいを持ち、よりよい喜びのある人生をめざす態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

今回行われた職場体験には多くの道徳的価値が含まれており、生徒はそれを肌で感じとってきている。しかも、生徒にとっては、職場という学校とは異なった環境の中での体験であるために、今までにない深い価値を実感している。このような生徒にとって貴重な体験である職場体験をそれだけで終わらせるのではなく、道徳の時間と結びつけて道徳的実践力を育成し、道徳的実践へと発展させることは、自覚した価値を自らの生き方の問題として深め、日常生活に反映させていく上で大変意義があると考えた。

(2) 生徒の実態

本学級は、明るく活発な生徒が多く、自分の意見を素直に言える雰囲気を持っている。また、行事にもクラスが協力して取り組み、何事にも一生懸命やってみようとする感じが見受けられる。しかしながら、清掃活動や係当番活動は言われたことだけを言われてから取りかかる生徒も多く、面倒くさいことは避けたい傾向にある。

今年度第2学年では、2days 職業体験を7月14日、15日の両日に実施した。体験活動では、それぞれの生徒が発見、疑問、驚き、反省、喜び、感動などを感じてお礼状やまとめ新聞に書いている。この体験学習で「職業」を意識した様々な道徳性のはぐくまれるもととなる「気づき」が生まれたと考えられる。アンケートなどからも具体的には次の三つの「気づき」をほぼ全員の生徒が持ったようである。

- ・仕事をする大変さ
- ・仕事をする喜び
- ・将来の自分の職業に関する思い

また、キャリア教育に係るアンケートの中で、自分の進路について前向きに考え始めている生徒も見受けられるが、具体的な職業観・勤労観に関しては「自分の興味」や「経済性」のみを重視している者も多く、「社会への奉仕」を自分の事としてとらえきれていない面も見られる。

《職場体験学習の感想》

人生で初めて、お店に出て、お客様とふれあい忘れられないよい思い出となりました。僕が働かせていただき、印象に残っている一つは朝のあいさつです。初めて店に入ったときから、車の販売店の方々は、「おはようございます」と大きな声であいさつし合い、普段から行っているあいさつという物の大切さがわかりました。また、話してくださった「車の販売店は、車を扱うところではなく、人と接するところだ。」という言葉が、とても印象に残りました。(車の販売店)

お客様のことを第一に考えることと明るくあいさつで接することの大切さを実感することができた気がします。(文房具店)

この職場体験の仕事でモールの棚卸しなどをして、どんなに大変な仕事でもお客さんのために頑張る努力を学びました。人のために頑張るということを忘れずにこれからの生活にも生かしていきたいです。(文房具店)

私は品だしの仕事を中心にお手伝いさせていただきましたが、賞味期限の近い物を手前に出したり、品物の前後の向きなど、細かいところまで気を遣っているということも学びました。確かに、今まではそれが当たり前だと思っていたのですが、体験してみて、結構大変だと思いました。店員さんたちの細かな気配りがあるからこそ、お客さんが快適に買い物をできるのだと気づき感動しました。(スーパーマーケット)

(3) 資料の活用について

資料は「彩の国の道徳 自分をみつめて」から『ぼくの職場体験活動』である。

本資料では、中学生が職場体験学習で行った小さな商店での様子が描かれている。

主人公の和人と同様に面倒くさい掃除などはさげ、楽をしたいと考えている生徒は多い。しかしながら、店主の言葉で、「人のために働く喜び」に気づいた主人公の気持ちもつい先日職場体験学習を実際に行ってきた生徒はよく分かるのではないかと。和人の気持ちの変化を共感的に追求させることによって、働くということは、生きがいや社会への貢献につながっていることに気づかせたい。また、学校生活の中で人の役に立ったという充実感を思い起こさせることにより、働くことの喜びに気づかせるとともに、これからも社会に奉仕し、貢献しようとする実践意欲を高めたい。

生徒たちには、自分が体験した職場での人との関わり、その時の様子を思い出させながら、働くことの意義をじっくり考える機会を与えたい。また、それぞれ経営者側とお客の気持ちを考えさせることで、掃除をすることにこだわる理由、地域の一員としての役割を通して、おじさんの心情に迫り、勤労の尊さや意義に気付かせたい。また、どんな仕事にも楽しさを自ら見いだしていくことの必要性に気づかせたい。

3 研修テーマとの関わり

「確かな学力を育成する授業づくり～学力向上の基盤としての道徳的実践力の育成～」を受け、生徒の体験と結びつけ、道徳的価値の自覚をうながし、道徳的実践力につなげていく授業とするため、今回の職場体験学習との関わりについて、次の点を工夫した。

(1) 職場体験学習事前学習

体験学習の事前に「働くこと＝自分の生き方を考えること」「なぜ働くか」などを講演会等で考える機会を持った。また、アンケートや進路適性検査を実施し、学習に対する興味・関心をもたせ、意見を出しやすくした。

(2) 職場体験学習事後指導

生徒一人一人が自分の考えを整理したり、じっくりと考えを深めたりできるようにするため、新聞にまとめさせた。また、事前に友達の感想などを知ることによって、自信を持って活発に意見を出せるようにした。

(3) 職場体験学習を想起(本時)

意図的に職場体験を想起させる場面を設けることにより、資料をより身近なものとして読むことができる。

(4) ワークシートの活用(本時)

ワークシートを記入させながら、じっくり自分を見つめさせ、自らの体験や考えの中にある道徳的価値に気づかせたい。また、文章にすることで自分の考えを整理し、価値の自覚、深化を促したい。

(5) TTによる指導(本時)

TTを利用することにより、ストーリーに関する発問と、職場体験に関連した発問について担当を分けることで、生徒に発問の意図をはっきり印象づけることができる。

4 他の教育活動との関連

日程	学習内容	ねらい
6月15日	県出前講座「働くとは」	体験で価値を自覚することを促す
6月22日	講演会「これから将来を考える君たちへ」	
6月27日	進路適性検査実施	
7月14日/15日	職場体験学習	価値を実感する
7月19日	職場体験学習アンケート提出	自分の内面で深く価値を自覚し、その価値を自分の生活に生かしていこうとする態度や意欲を育成する
8月20日	職場体験学習まとめ新聞製作	
9月8日	道徳授業「ぼくの職場体験学習」 勤労の尊さと意義 4－(5)	
9月21日	職場へまとめ新聞を持参	

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める態度を育てる。

(2) 展開

	学習活動と主な発問	期待される生徒の反応	指導上の留意点	時間
導入	1 職場体験の写真を提示し、簡単に振り返る。 「職場体験学習では実際に働いてみてどう感じたか。」 (T2)	<ul style="list-style-type: none"> ・大変だった。 ・楽しかった。 ・働いている人はすごいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を思い出し、興味関心を持たせたい。 ・友達の仕事内容を知り、感想を持つことで資料につなげたい。 	5分
展開	2 資料の概要を知る。(T1) 3 資料の範読を聞く。(T1) 4 空き缶を蹴飛ばした和人の気持ちを考える。 「和人は、どんな気持ちで空き缶を道の反対側へと転がしたのだろう」(T1)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽な仕事がいい。 ・何で自分だけ…ずるい。 ・何でこんなことしなくちゃいけないんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎人間の弱さへの共感 ・嫌なことから逃げたい、思い通りにならないいらだちを共感させたい。 	35分
	5 店長の話聞いた和人の気持ちを考える。 「『一番感心したのは和人君だ』という店長の話聞きながら、和人はどんなことを考えていたのだろうか。」(T1) 補助発問 「店長さんにとってお店(働く)とは何だろう。」(T1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめられてうれしい。 ・いやいや、やってたのにほめられて、恥ずかしい。 ・お客さんのためには必要な仕事だったんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎価値への気づき ・店長の言葉から勤労の価値に気づいた主人公の気持ちをとらえさせたい。 ・T2 は生徒の発言の板書や、必要に応じて生徒を揺さぶる助言・発問を行う。 	
	6 帰り道の和人の気持ちを考える。 「和人はどんなことを考えてペダルをこいでいたのだろうか。」(T1)	<ul style="list-style-type: none"> ・よおし、がんばるぞ。 ・明日はもっと真剣にやろう。 ・掃除だって立派な仕事だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎価値の自覚 ・働くことを前向きにとらえ、自分の仕事の価値に気づく主人公の気持ちをとらえさせたい。 	

終 末	7 職場体験学習の様子や生徒アンケート結果について教師の話聞き、「人はどんな気持ちで働いているのか」を考える。「人はなぜ働くのだろうか。」 (T2)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や好きなことを仕事にしたい。 ・やりがいや生き甲斐を感じたい。 ・社会や人のため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の職場体験で感謝されたり、人の役に立った喜びを思い出させたい。 	10 分
	8 自分の経験を振り返って心のノートに書く。(T1・T2)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来人の役に立つ仕事をしてみたい。 ・たくさんの人に感謝される仕事がしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章にすることで自分の考えを整理し、価値の自覚、深化を促したい。 	

(3) 評価

①生徒の評価

- ・ 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神を持って、公共の福祉と社会の発展に努めようとする気持ちをもつことができたか。
- ・ 働くことが自分のためだけでなく、人の役にも立っていることに気づけたか。
- ・ 職業を選択する条件について、自らの考えを深めることができたか。

②教師の評価

- ・ TT を取り入れた授業は、生徒の「正直な」考えを引き出すことに有効だったか。
- ・ 体験学習の想起を取り入れた授業は道徳の価値項目に照らし合わせて妥当だったか。
- ・ 深化させる場面で用いた中心発問は効果的だったか。

(4) 事後指導

- ・ 職場体験学習のまとめ新聞を読みあうことにより、仕事の意義を繰り返し理解させ、自己の生き方について考えさせる機会を持つ。
- ・ 1 1 月実施予定の上級学校訪問においても積極的に、かつ具体的に自己の進路について考えさせ、目標に向かって努力する態度を養う。
- ・ 社会への奉仕 4 - (5) について、『わたし、あなた、そしてみんな』副読本の授業を 2 月に行い、社会に奉仕し、貢献しようとする実践意欲を高めたい。